

導入事例 Case Study

オンプレミスとクラウドで運用中のシステムに「VMware vCloud® Air™」を追加導入し拡張性を強化



ICTを活用したアウトソーシングサービスを提供するコムテック株式会社(以下、コムテック)は2012年にソフトバンクの「ホワイトクラウド VMware vCloud® Datacenter Service」を導入して基幹システムの一部をクラウド化しました。



その後、サーバリソースの増減がより柔軟に行える「VMware vCloud Air」を導入してシステムのフレキシビリティを向上させました。「VMware vCloud Air」は西日本のデータセンターで運用されるため、東日本のデータセンターで運用する既存システムとの併用でBCPの強化にもつながっています。

課題と効果



コムテック株式会社
情報システム室
室長
袋井 真音 氏

課題 新規にクラウド環境を構築する際に既存システムと異なるアーキテクチャを選択すると、運用管理者のスキル習得コストが発生します。

効果 「VMware vCloud Air」は現在利用中であるVMwareの運用管理スキルをそのまま活用できるので人的リソースを有効活用できます。

課題 同一アーキテクチャのクラウド環境を新規追加する場合でも、新たなネットワーク構築が必要でした。

効果 ソフトバンクはこれまでのネットワーク構築ノウハウを生かしたクラウドとネットワークのサービスをワンストップで提供してくれました。

課題 オンプレミスとクラウドで構築した基幹システムは、どちらも東日本地域のデータセンターに依存しており、大規模災害の発生により機能停止となるリスクがありました。

効果 西日本のデータセンターで運用される「VMware vCloud Air」を導入して基盤システムの一部を多重化することでBCPを強化できました。

導入の背景> サーバリソースの増減をよりフレキシブルに行いたい

コムテックはシステムの開発・運用、システムコンサルティング、マーケティング支援、窓口業務といったオペレーションなど、多様なアウトソーシングサービスを提供しています。当初は社内システムをオンプレミスのVMware環境で運用していましたが、2012年にBCPの強化を目的として人事・会計やディレクトリサーバといった可用性の求められるシステムを「ホワイトクラウド VMware vCloud Datacenter Service」へ移行させました。

2014年7月にソフトバンクから「VMware vCloud Air」の提供が発表され「ホワイトクラウド VMware vCloud Datacenter

Service」よりさらにサーバリソースの増減を容易に行えると分かりさっそく導入検討に入りました。多様なアウトソーシングサービスを手掛ける同社は、各サービスに対応する業務システムをビジネス環境の変化に合わせて柔軟に更新していく必要があったからです。

「西日本のデータセンターで運用される「VMware vCloud Air」と東日本のデータセンターで運用中の既存システムを併用すれば、東日本地域で大災害が発生してもすべてのコミュニケーション手段を喪失する事態は避けられるというメリットもあります」と同社の袋井 真音氏は述べます。

選択のポイント・・・▶「VMware vCloud Air」のベータプログラムに参加し操作性に好印象

「VMware vCloud Air」のベータプログラムに参加した際の印象を袋井氏は次のように語ります。「管理用ポータルでの操作コンソールの使い勝手がよいと感じました。当社は既存システムをVMware環境に構築しているため、そのスキルを生かして違和感なく操作できます。これなら運用管理を任せるスタッフへの教育コストは最小限に抑えられると感じました」。

ストレージの価格性能比などコスト面については、クラウド型仮想サーバを提供する他社製品と比較しても十分な競争力がありました。「それに加えて「VMware vCloud Air」はVMware社が自社サービスとして機能向上のロードマップを正式発表しているため、それに沿って将来の自社システムを構想できます。この安心感は他社にはな

い優位点です」と袋井氏は述べます。

さらに通信キャリアであるソフトバンクがネットワーク構築を担う点も安心感の得られる要素だと袋井氏は指摘します。「クラウドサービスをそれぞれ単体の価格や性能で評価するのは不十分です。クラウドに構築したシステムをオフィスから利用するには信頼できるネットワークがあつてこそ。社内ネットワークは事業所の追加や組織変更、新規事業の立ち上げなどで常に構成が変わります。その際に柔軟にクラウドへ接続できるネットワークであることが重要です。「VMware vCloud Air」の利用にあたってこうしたネットワーク関連の対応をソフトバンクが担ってくれることが大きなアドバンテージだと感じます」。

導入の概要と効果・・・▶ 東日本と西日本にデータセンターを分散させBCPを推進

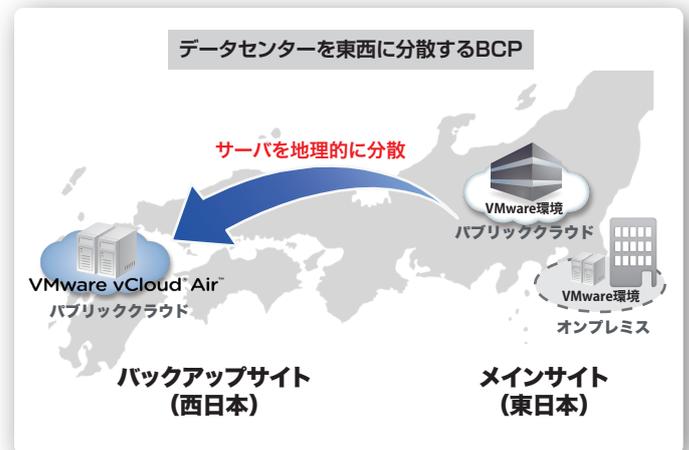
クラウドへのシステム移行が容易な「VMware vCloud Air」の特性を生かして当社が当初に取り組んだのはBCPの強化です。以前のシステムは同一データセンター内のハードウェア冗長化や、オンプレミスとクラウドとのプライマリ/バックアップ、あるいはアクティブ/アクティブという構成でした。この二重化された構成の一方を西日本のデータセンター内にある「VMware vCloud Air」へ移行しました。首都直下型地震や南海トラフ地震などが想定される中、東日本と西日本にデータセンターを分散させることで事業の継続性を強化できました。

「VMware vCloud Air」はVMwareで培ったスキルセットを流用できるため、システムの運用管理を担当する人材に対し追加トレーニング

を施す必要はありません。通常、異なるアーキテクチャのクラウドサービスを導入する場合、機能やコマンドを新規に覚える負荷が発生します。その結果、日々の運用で人為的なミスが発生する確率も上がります。「こうした人的リソースにかかるコストを低く抑えられることは「VMware vCloud Air」を導入した大きなメリットです」と袋井氏は述べています。

導入したサービス

「VMware vCloud Air」はVMware社がグローバルで提供しているハイブリッドクラウドサービスで、プライベートクラウドとパブリッククラウド双方の管理を共通化し、クラウド間でのアプリケーションの移行や連携を自由に行える機能を提供します。サーバリソースのほか、クラウド間でアプリケーションをスムーズに移動可能にするために必要な仮想ネットワークやセキュリティコンポーネントを備え、単一の管理ツールを提供することで、仮想マシンの自由な移行やクラウドをまたがったアプリケーションの連携を可能にします。



今後の展開・・・▶ オンプレミスのVMware環境を将来的にはクラウドへ移行

同社はオンプレミスで運用中のシステムを順次クラウドに移行する計画を立てています。「オンプレミスのシステムを廃止したい理由は、ハードウェア保守に関する運用ノウハウを維持している人的コストをなくし、大きなコスト削減を実現するためです。ハードウェアは3～5年も経つとどこかに故障が発生します。ハードウェアベンダと保守契約を結んでいても、故障箇所の手切り分けといった保守ノウハウは必要です。自社で人材を育てるにしても、システムインテグレータに委託するにして

も、無視できないコストが発生しているのです」と袋井氏は述べます。

「将来、すべてのシステムをクラウド化した際にはネットワークの品質維持が非常に重要になります。ソフトバンクにはクラウドとネットワークのサービスを一括して任せることができ、クラウド環境とオフィス間のネットワーク接続に関するノウハウを提供してもらえる点に価値があると思っています」と袋井氏はソフトバンクへの期待を語ります。

コムテック株式会社

本社：東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館10F

創業：1976年11月6日

資本金：7億6200万円

売上高：連結 131億1800万円、単体 121億7300万円(いずれも2014年3月期)

従業員数：連結 正社員837名/契約社員・スタッフ社員1,098名、

単体 正社員665名/契約社員・スタッフ社員1,037名(いずれも2014年3月31日現在)

事業概要：子会社4社を含むコムテックグループとして、インバウンド・アウトバウンド・営業代行といった「営業支援」、コミュニケーション施策やキャンペーン企画を行う「マーケティング支援」、ITシステムに関する「コンサルティング・業務設計」「システム開発・運用」、データ入力・管理といった「オペレーション」など、多様なビジネスプロセスのアウトソーシングニーズにワンストップで対応する。

URL：<http://www.ct-net.co.jp/>



※パンフレット記載内容は、2015年3月現在のものです。